

山口情報芸術センター[YCAM] 作品受賞のお知らせ

第15回文化庁メディア芸術祭にてYCAM発表作品が受賞

真鍋大度+石橋素「particles」(2011年度YCAM発表作品)

白井 剛+YCAM ビデオダンス制作プロジェクト

「Choreography filmed: 5days of movement」(2010年度YCAM委嘱作品/滞在制作)

第15回文化庁メディア芸術祭にて、**YCAMにて世界初公開した作品「particles」が優秀賞を受賞。****さらに、YCAMとアーティストによる映像制作プロジェクトが審査委員会推薦作品に選出。**

2011年12月15日に、第15回文化庁メディア芸術祭の受賞/選出作品の公式発表がおこなわれ、山口情報芸術センターにて制作・公開した2つの作品の受賞/選出が決定いたしました。2011年にYCAMにて世界初公開した、^{まなべ だいと いしはし ちと}真鍋大度氏と石橋素氏の共作「particles」(パーティクルズ)がアート部門優秀賞を受賞。また、2010年度にYCAMが振付家/ダンサーの^{しらいつよし}白井剛氏と共同で制作した映像作品と、その制作プロジェクト「Choreography filmed: 5days of movement」(コレオグラフィー・フィルムド: ファイブデイズ・オブ・ムーブメント)が同部門審査委員会推薦作品に選出されました。

「文化庁メディア芸術祭」とは、メディア芸術の創造と発展を図ることを目的とし、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなど、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、これを鑑賞する機会を提供するもので、1997年より毎年開催されています。今年度は、過去最多の2,700件以上の作品から、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門それぞれから、大賞1作品、優秀賞4作品、新人賞3作品、審査委員会推薦作品数十作品が選ばれました。



真鍋大度+石橋素「particles」(2011)

白井剛+YCAM ビデオダンス制作プロジェクト
「Choreography filmed: 5days of movement」より(2010)

※受賞についての詳細は、メディア芸術祭
「文化庁メディア芸術プラザ」

<http://plaza.bunka.go.jp/festival/>
にてご確認ください。

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田
TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp
〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

第15回文化庁メディア芸術祭アート部門 優秀賞受賞

制作者：

真鍋大度+石橋素

作品タイトル：

「particles」

初公開：

山口情報芸術センター [YCAM]: 企画展

真鍋大度+石橋素 新作インスタレーション「particles」

会期：

2011年3月5日(土) - 5月5日(木・祝)

※YCAMにおける2011年の展覧会についての詳細は、特設ウェブサイト <http://particles.ycam.jp/> よりご覧いただけます。



真鍋大度+石橋素「particles」より (2011)

作品概要

点滅する光源が空中を浮遊し、幻影的な残像を作り出すイルミネーション・インスタレーション。有機的な螺旋空間構造をもつレールの上を、LED（発光ダイオード/Light Emitting Diode）を内蔵した多数のボールが次々に通過していきます。LEDが様々なタイミングと色彩で発光することにより、光の粒子が浮遊し、空中に多様な形態を描き出します。レールの構造特性と通信制御技術を融合し、光の明滅を3次元空間としてデザインすることで、観客の位置によってもイルミネーションの見え方が変化します。LEDデバイスなどのハードシステムからプログラミングに至るまで、誰もが楽しめるアイデアと緻密な情報技術が融合した作品です。

なお、本作は、世界最大のメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ2011」にて、インタラクティブアート部門でAwards of Distinction（優秀賞）も受賞しています。

贈賞理由

【平第15回文化庁メディア芸術祭 受賞作品決定プレスリリースより転載】

制御された夥しい点滅光源が、空中をダイナミックに動き回り、幻想的な光の空間を生み出すインスタレーションである。発想と定着が高度に合致しており、テクノロジーを正確に用いて、意図する表現を生み出すメディアアート表現として高い水準にあると判断された。実際の装置は、空中に設置された八の字ループのレールの上を、緻密なコントロールで送り出される無数のボールが転がっていくというもの。ボールの中に仕込まれたLEDは通信制御で発光のタイミングが制御されており、飛翔する光の群舞を、実在する大きな三次元空間として体感できる。観客の視点の移動に従って運動する光源の群れの見え方も変わっていく。インスタレーションならではの魅力あふれる作品である。



[左]真鍋大度 [右]石橋素

真鍋大度 | Daito Manabe

アーティスト/デザイナー

<http://www.daito.ws/>

1976年東京生まれ。東京理科大学理学部数学科、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー [AMAS] 卒業。振動、超低周波を使用し、触覚と聴覚の特殊性、共通性、相互作用をテーマに作品制作をおこない、筋電センサー、低周波発生器を用いたパフォーマンス、実験的なターンテーブルリストとして国内外の様々なアートプロジェクトに参加。2006年株式会社ライゾマティクス設立。YCAMでは、UA+内橋和久「path」（2005）、渋谷慶一郎+池上高志「filmachine」（2006）、「true/本当のこと」（2007）など多数の作品制作に参加。2010年には検索ワークショップ「Search'n Search」で講師を務めた。

石橋素 | Motoi Ishibashi

プログラマー/エンジニア/システムデザイナー <http://www.motoi.ws/>

1975年生まれ。東京工業大学制御システム工学科、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー [AMAS] 卒業。デジタルメディアを使った作品制作を始め、テクノロジーを駆使した新しい遊び、プロトコルをテーマに開発/制作を展開。2006年株式会社DGN設立。2008年より研究・制作スペース「4nchor5 la6（アンカース・ラボ）」を共同主宰し、アート、デザイン、研究、パフォーマンスなど、領域を問わず精力的に制作活動もおこなっている。YCAMでは、YCAM開館記念プロジェクト、ラファエル・ロサノ=ヘ

第15回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品選出

制作者:

白井剛+YCAM

プロジェクトタイトル:

「Choreography filmed: 5days of movement」

映像作品タイトル:

「質量, slide ,& . in frames」(YCAM委嘱作品、2010)

プロジェクト実施期間:

2010年4月19日-2011年1月23日

映像作品発表上映会:

2011年1月23日



映像作品「質量, slide ,& . in frames」(YCAM委嘱作品、2011)

※本プロジェクトの詳細と、映像作品は、特設ウェブサイト
<http://c-filmed.ycam.jp/>でご覧いただけます。

プロジェクト概要

本プロジェクトでは、振付家/ダンサーの白井剛の代表作であるダンス作品「質量, slide, & .」(2004年初演)を、YCAMとアーティストが共同で映像作品(ビデオダンス作品)へと再構成し、インターネットにおける多面的なアプローチを展開しました。

約半年間にわたるプロジェクトでは、5日間の撮影映像をインターネット上で中継するほか、完成した映像作品と、全撮影素材を特設ウェブサイトにて公開。2011年1月には、アーティストとゲストをむかえ、映像作品の発表上映会も開催しました。

プロジェクトにて制作した映像作品「質量, slide ,& . in frames」は、白井のダンス作品と同様に、物と身体との関わりから見えてくる「質量」に注目し、物の移動や身体の動きを多角的に撮影し、不思議な浮遊感覚と力学のダイナミズムを表現しています。

また、特設のウェブサイトでは、現在の映像を取り巻く視聴環境/制作環境からもダンス表現のあり様を検証すべく、撮影と編集に至る作品制作のプロセスを記録/公開し、ダンスが生まれる瞬間をも創作する新しいパフォーマンスアーツの体験を提示しています。



「Choreography filmed: 5days of movement」特設ウェブサイト

photo: 白井 亮

白井 剛 | Tsuyoshi Shirai
振付家/ダンサー

1996-2000年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」の作品に出演。1998年「Study of Live works 発条ト」の設立に参加し、パニョレ国際振付賞受賞。2004年「質量, slide ,& .」を発表、この作品で2006年トヨタコレオグラフィーアワード「次代を担う振付家賞」を受賞。また、ダンサーとして、2004-2005年ユーリ・ン振付「悪魔の物語」、2005年伊藤キム振付「禁色」に出演。2006年、カンパニー「AbsT」を立ち上げ、2007年「しはに-subsoil」、5人の音楽家との共作「THECO-ザコ」を発表。第1回日本ダンスフォーラム賞を受賞。2006年から現代音楽の「アルデッティ弦楽四重奏団」とのコラボレーション作品「アパートメントハウス1776/ジョン・ケージ」に参加し、国内10ヶ所で巡演している。また、2007年にはYCAMでの滞在制作によって発表した、10人のアーティストによる共作「true/本当のこと」(YCAM初演)に参加、ヨーロッパやブラジルをはじめ国内外で上演を続けている。2009年「blue Lion」、2010年「静物画-still life」を京都で創作初演、好評を得ている。同年8月には、YCAMにて音響と身体表現をテーマにしたワークショップ「surround garden」の講師を務めた。

